

『就実論叢』第49号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2020年2月29日 発行

# 講義にビデオ教材を利用した有用性について — アドバンスト科目「薬剤師と地域医療」を通して —

**Advantages on using video teaching materials for lecture  
- Through the advanced subject “pharmacists in community medicine” -**

島 田 憲 一  
柴 田 隆 司

# 講義にビデオ教材を利用した有用性について

## — アドバンスト科目「薬剤師と地域医療」を通して —

Advantages on using video teaching materials for lecture  
- Through the advanced subject “pharmacists in community medicine” -

島田 憲一 (薬学科)

SHIMADA Kenichi

柴田 隆司 (薬学科)

SHIBATA Takashi

キーワード：コミュニケーション，認知症，ビデオ教材，介護保険，地域包括ケア，テキストマイニング

### 1. 緒言

学生が体験していない制度や法制度について講義を行う場合，表面的な理解しか得られていないと思わせる機会を多く経験する。理解を深めるためには，過去の事例を引用したり，仮想現実を設定した問題作成をしたりするなどの工夫が考えられる。学習者自身が仮想体験を行ない，その経験に沿って理解を追加していくことが確固たる知識となっていくように考えられる。

今回，4年次科目である標記科目に関連したビデオ教材を昭和大学より入手することができたので，講義の際にビデオ視聴を行ったうえでビデオ教材の有用性に関するアンケート調査及び認知症患者への対応についてのレポートを実施した。

具体的には，①講義の際にビデオ視聴を行ったうえで，入手先からの提供によるビデオ教材の有用性に関するアンケート調査並びに②ビデオ学習と症例紹介に基づいた事例検討との比較に関するアンケート調査を実施した。さらに，③ビデオで紹介された認知症患者に対するコミュニケーションのあり方についてレポート提出を課し，受講生が考える認知症患者への対応の仕方について検討した。

### 2. 方法

本学部のアドバンスト科目「薬剤師と地域医療」は4年次生の配当科目であり，選択科目である。講義回数は7回で1単位となっており，本年度の受講生は18名であった。本学部では，1年次に老人ホームなどでのボランティア活動を経験させている。したがって，高齢者に対する対応の概略は理解しているはずである。また，本科目の同時期には必修科目である

薬事関係法規の講義を並行して実施している。

今回、昭和大学薬学部で亀井大輔氏より入手したビデオ教材<sup>1)</sup>は「PBL1 独居の祖母の思い」3分間、「PBL2 祖母と家族の思い」10分間で構成されており、その内容を以下に示す。

#### 「PBL1 独居の祖母の思い」(3分間)

初回の講義の終了前に視聴し、4～5名によるスモールグループディスカッション (SGD) を実施した後、理解と有用性に関するアンケートを実施した。

主人公は医療系学部の1年生で、在宅医療入門の講義終了後、主人公の回想シーンから祖母の様子が紹介された。祖母76歳。祖父母は地方に住んでいたが3年前に祖父が死亡したため独居となった。それ以後、電話の際の話などから認知症症状 (もの盗られ妄想など) が顕著化していたことが認められた。ある日、祖母が階段から転落。骨折は免れたものの腰を強く打っておりコルセットを装着した。思い出のある家で今まで通り暮らしたいと望み、老人ホームへの入居は拒否している。画面では住宅環境が示され、階段には手摺が無いなどの状況説明があった。

#### 「PBL2 祖母と家族の思い」(10分間)

3回目の講義の終了前に視聴し、同様にSGDを実施した後、初回と同じアンケートを実施した。

上記ビデオの1年半後の設定で、祖母の息子 (主人公の父・東京在住) との同居理由が説明された。半年前の独居中に、階段より転落し腰椎圧迫骨折した。独居では世話ができないため、祖母の家を売却した資金で息子の家をリフォームし、同居を開始した。主人公の家族構成は父母、本人、弟である。母は専業主婦で一日中、祖母を介護していた。祖母は食事に誘われても拒否したり、自分がいる場所が判らず大声を出し家に帰りたく訴えたりしていた。母は介護の際に腰を痛めることが多い様子が示されていた。一週間後、家族そろって夕食を食べていたが、祖母が好きと言っていたキンピラを母が調理し、祖母以外の家族は美味しいと言いながら食べていたが、祖母は不味いと言って捨てていた。そんな言動に一家は言葉失くしていた。また、ある日、祖母がトイレに行く前に廊下で失禁し、母が雑巾で片付けている横で、祖母は自虐的に「トイレに行けないなら生きていく価値が無い」と独白していた。母は「オムツをしてくれたら介護しやすいのに」とか「寝ているときはホッとすると介護疲れを示唆する言葉」を話していた。別の日、主人公が母にケーキを買いに行こうと誘い、駅前だから時間もかからず、すぐ家に戻ってこられる、と主人公が言って、母との外出を促した。その際に祖母は就寝していたが、祖母が徘徊しないように祖母の部屋に外側から施錠して外出した。主人公たちが家に戻ると、祖母は部屋の中で助けてくれ、出してくれ、と大声で騒いでいた。主人公と母は困惑した顔を示していた。その後、家族揃って祖母の要介護申請について会議をしており、要介護2ならデイサービスは週3回、訪問介護は週3回

が可能だから自宅で介護できるとしたが、弟は、祖母を施設に入れて母の負担を減らそうと訴えた。母は、祖母がオムツをしたら介護が可能であると訴えた。主人公は母を応援するため、部活をやめて手伝うと訴えるも、母がとめた。父は仕事で手一杯で介護を手伝うことが出来ないと言った。このような状況説明の後、主人公は何が出来るのだろうか、祖母の気持ちを思いやっているところでビデオは終了する。

以上のビデオを初回の講義終了前、3回目講義の終了前に視聴した後、入手先によるビデオ教材の有用性に関するアンケート（図1）を、各ビデオ視聴後に実施した。さらに、4回目の講義初めに、2回のビデオ教材に関する有用性と文章等による事例検討との有用性を比較する目的で受講生にアンケート（図2）を行った。また、ビデオ教材で話題となっていた認知症患者への対応について、600文字程度のレポートを提出させ、テキストマイニングソフト KH Coder<sup>2, 3)</sup>を用いて解析を行った。

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業（昭和大学 薬学部）  
 大学と地域で育むホームファーマシスト～患者と家族の思いを支え、在宅チーム医療を実現する薬剤師養成プログラム～（平成26～30年）

**映像教材「独居の祖母の思い」及び「祖母と家族の思い」に関するアンケート（学生用）**

本映像教材の内容および有効性について評価し、今後、より良い教材とするためのアンケート調査です。以下に同意いただける方はアンケートにご協力をお願いいたします。  
 ・本アンケートは無記名ですのでご自身の個人情報は取り扱いません。また、評価/解析後は速やかに破棄いたします。  
 ・本アンケートで得られた結果は、今後の研究発表にて使用させていただきます。  
 今回、使用した映像教材に関する下記の質問A～Dについて、1番あなたの意見に近いと思う番号に○をつけて下さい（一部、自由記載を含む）。ご協力を宜しくお願いします。  
 （なお、このアンケートは個人の成績等には全く影響しません。）

|                    |                  |    |    |    |                   |    |
|--------------------|------------------|----|----|----|-------------------|----|
| ご所属の大学を教えてください。（ ） |                  |    |    |    |                   |    |
| 学部・学科を教えてください。     | 医                | 歯  | 薬  | 看  | その他（ ）            |    |
| 学年を教えてください。        | 1年               | 2年 | 3年 | 4年 | 5年                | 6年 |
| 使用した映像教材はどちらでしたか   | 「独居の祖母の思い」（約3分間） |    |    | or | 「祖母と家族の思い」（約10分間） |    |

| 質 問  | 回 答            |               |             |            |             |
|--|----------------|---------------|-------------|------------|-------------|
|  | まったくその<br>思わない | あまりその<br>思わない | どちらでも<br>ない | やや<br>その思う | とても<br>その思う |
| <b>A. 映像教材の内容について</b>                                      |                |               |             |            |             |
| 1:内容が分かり易かった。  | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 2:感情移入ができた。  | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 3:祖母のイメージが共有できた。（他の学生との共有）                                 | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 4:祖母の想いや考えが理解できた。  | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 5:映像教材の時間は適切であった。  | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| <b>B. 討議内容について</b>   |                |               |             |            |             |
| 6:祖母の「病気」について討議した。（話題にあがった。）例：認知症、腰痛圧迫骨折、筋力低下、味覚障害など...    | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 7:祖母や家族の「思い」について討議した。（話題にあがった。）例：祖母の希望、考え、尊敬、やりたい事など...    | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 8:祖母の「家族」について討議した。（話題にあがった。）例：家族の意向、家族の方針、家族の職務、介護負担など...  | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 9:祖母の「住環境」について討議した。（話題にあがった。）例：段差、改築、手すり、簡易トイレなど...        | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 10:地域の「介護・施設」について討議した。（話題にあがった。）例：介護サービス、施設、介護認定、行政制度など... | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 11:その他の討議内容（自由記載）例：○○○について...                              |                |               |             |            |             |
| <b>C. 問題解決のための提案について（最終的な提案）</b>                           |                |               |             |            |             |
| 12:祖母の「病気」に関連する問題解決のプランを提案した。                              | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 13:祖母や家族の「思いや気持ち」に関連する問題解決のプランを提案した。                       | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 14:祖母の「家族」に関連する問題解決のプランを提案した。                              | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 15:祖母の「住環境」に関連する問題解決のプランを提案した。                             | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 16:地域の「介護・施設」に関連する問題解決のプランを提案した。                           | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 17:問題解決の提案はできなかった。   | 1              | 2             | 3           | 4          | 5           |
| 18:その他の提案（自由記載）例：○○○について...                                |                |               |             |            |             |

**D. 自由記載**  
 映像教材「独居の祖母の思い」または「祖母と家族の思い」について感じたこと、思ったことを以下の空欄に自由に書いて下さい。  
 （例えば、映像教材がより素晴らしいと思う提案や、改善点、意見・感想等、何でも結構です。）

アンケートは以上です。ご協力をありがとうございました。  
 問い合わせ先（実施責任者） 亀井 大輔（昭和大学薬学部 社会健康薬学講座） E-mail : daikame@pharm.showa-u.ac.jp

図 1. 昭和大学作成のビデオ教材の有用性に関するアンケート

今回のビデオ学習について、下記アンケートにお答えください。 薬剤師と地域医療  
学会に発表したり文献として発表したりすることがあります。  
発表内容について個人情報は含まれません。

- ① ビデオを視聴してその内容について理解できましたか
1. 充分理解できた 2. まあ理解できた 3. あまり理解できなかった 4. 全く理解できなかった
- ② ビデオを見た時間について
1. 非常に短い 2. 短い 3. 適切 4. 非常に適切
- ③ ビデオを視聴した後にSGDを行いました、対応ができましたか
1. 充分対応できた 2. まあ対応できた 3. あまり対応できなかった 4. 全く対応できなかった
- ④ 映像を用いた問題提起の仕方について、前提としての知識はありましたか
1. 充分あった 2. まああった 3. あまりなかった 4. 全くなかった
- ⑤ 今回のビデオ学習は、講義のいつの段階で行ったら良いでしょうか
1. 講義前 2. 講義中 3. 講義後 4. 翌週
- ⑥ 今回のビデオ学習において、設定条件を把握できましたか
1. 充分把握できた 2. まあ把握できた 3. あまり把握できなかった 4. 全く把握できなかった
- ⑦ 今回のビデオ学習は有用と考えられますか
1. 充分有用である 2. まあ有用である 3. あまり有用でない 4. 全く有用でない
- ⑧ 今回のビデオ学習は、文章による条件設定で代用できると思いますか
1. 充分代用できる 2. まあ代用できる 3. あまり代用できない 4. 全く代用できない
- ⑨ 今回のビデオ学習について、意見を自由に記載してください。

ご協力ありがとうございました。 担当者一同

図2. ビデオ学習終了後（4回目講義時）に行ったビデオ教材及び事例検討の有用性に関する  
本学作成のアンケート

### 3. 倫理的配慮

対象となる学生にアンケート等の主旨と目的を説明し、①無記名で実施し、研究に協力しなくとも不利益はなく、成績には一切関係がないこと、②研究発表に用いることがあること、及び③得られたデータは教育研究以外に使用しないことを説明の上、実施した。

#### 4. 結果

①-1 ビデオ教材の有用性に関するアンケート（初回の講義時）の集計結果を表1に示す。

表1. ビデオ教材の有用性に関するアンケート（初回の講義時）の集計結果

| 質 問  | 回 答            |               |             |            |             |
|--|----------------|---------------|-------------|------------|-------------|
|  | まったくそう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | どちらでも<br>ない | やや<br>そう思う | とても<br>そう思う |
| A. 映像教材の内容について   |                |               |             |            |             |
| 1 内容が分かり易かった。  |                |               | 1           | 9          | 9           |
| 2 感情移入ができた。  |                | 3             | 2           | 10         | 4           |
| 3 祖母のイメージが共有できた。(他の学生との共有)                                 |                | 1             | 2           | 11         | 5           |
| 4 祖母の想いや考えが理解できた。  |                | 2             | 3           | 9          | 5           |
| 5 映像教材の時間は適切であった。  |                |               | 2           | 10         | 7           |
| B. 討議内容について  | まったくそう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | どちらでも<br>ない | やや<br>そう思う | とても<br>そう思う |
| 6 祖母の「病気」について討議した。(話題にあがった。)例:認知症、腰痛圧迫骨折、筋力低下、味覚障害など...    | 2              |               | 6           | 8          | 3           |
| 7 祖母や家族の「思い」について討議した。(話題にあがった。)例:祖母の希望、考え、尊敬、やりたい事など...    |                | 3             | 3           | 10         | 3           |
| 8 祖母の「家族」について討議した。(話題にあがった。)例:家族の意向、家族の方針、家族の葛藤、介護負担など...  | 1              | 1             | 5           | 5          | 7           |
| 9 祖母の「住環境」について討議した。(話題にあがった。)例:段差、改築、手すり、簡易トイレなど...        |                |               | 1           | 5          | 13          |
| 10 地域の「介護・施設」について討議した。(話題にあがった。)例:介護サービス、施設、介護認定、行政制度など... |                | 1             |             | 5          | 13          |
| 11 その他の討議内容(自由記載)例:○○○について...                              |                |               |             |            |             |
| C. 問題解決のための提案について(最終的な提案)                                  | まったくそう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | どちらでも<br>ない | やや<br>そう思う | とても<br>そう思う |
| 12 祖母の「病気」に関連する問題解決のプランを提案した。                              | 2              | 7             | 5           | 5          |             |
| 13 祖母や家族の「思いや気持ち」に関連する問題解決のプランを提案した。                       |                | 2             | 6           | 9          | 2           |
| 14 祖母の「家族」に関連する問題解決のプランを提案した。                              |                | 3             | 5           | 8          | 3           |
| 15 祖母の「住環境」に関連する問題解決のプランを提案した。                             |                |               | 1           | 8          | 10          |
| 16 地域の「介護・施設」に関連する問題解決のプランを提案した。                           |                |               | 1           | 12         | 6           |
| 17 問題解決の提案はできなかった。   | 6              | 8             | 4           |            |             |
| 18 その他の提案(自由記載)例:○○○について...                                |                |               |             |            |             |

#### IIに対するコメント

○地域の方と交流を深めて互いに気を付けあう。

○地域包括ケアシステムについて話し合った。

#### Dに対するコメント

○祖母の方言がきつすぎてほとんど何を言っているか分からない。全国の学生が見るものならもっと分かりやすくして欲しい。住環境のアピールが強すぎ段差やトイレなどについて触れてほしいんだ、と思わせる。

○夫が亡くなる前の元気なところの祖母の描写があれば、もう少し問題解決向けの討議ができたのかもしれない。

○祖母の生活状態(通院しているなど)があれば、病気についても討議できると思った。

○私も祖母と独居しているので、心配する気持ちが将来のことを考えるきっかけとなった。

○病気についてもっと知りたかったと思う。

○自分も同じような状況にあったので、とてもリアルに考えることができた。

○離れて暮らしている高齢者には、家族も周りも気にかけてあげなければいけないのだと思った。

○なるべく祖母の思いに沿った提案をしたいが、バリアフリーにするにも介護を依頼するに

もお金がかかるし、その分家族の負担もかかるのかなと思った。

A 映像教材の内容について、B 討議内容について、C 問題解決のための提案についての各項目において、受講者たちの回答はおおむね良好な結果を示した。

①-2 ビデオ教材の有用性に関するアンケート（3回目講義時）の集計結果を表2に示す。

表2. ビデオ教材の有用性に関するアンケート（3回目講義時）の集計結果

| 質 問                              |   | 回 答            |               |             |            |             |
|----------------------------------|---|----------------|---------------|-------------|------------|-------------|
|                                  |   | まったくそう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | どちらでも<br>ない | やや<br>そう思う | とても<br>そう思う |
| <b>A. 映像教材の内容について</b>            |   |                |               |             |            |             |
| 1                                | 内容が分かり易かった。   |                |               |             | 5          | 11          |
| 2                                | 感情移入ができた。   |                | 1             | 1           | 3          | 11          |
| 3                                | 祖母のイメージが共有できた。(他の学生との共有)                                |                |               | 3           | 5          | 8           |
| 4                                | 祖母の想いや考えが理解できた。   |                | 1             | 3           | 9          | 3           |
| 5                                | 映像教材の時間は適切であった。   |                |               | 1           | 6          | 9           |
| <b>B. 討議内容について</b>               |   |                |               |             |            |             |
| 6                                | 祖母の「病気」について討議した。(話題にあがった。)例:認知症、腰痛圧迫骨折、筋力低下、味覚障碍など...   | 2              | 7             | 1           | 5          | 1           |
| 7                                | 祖母や家族の「思い」について討議した。(話題にあがった。)例:祖母の希望、考え、尊厳、やりたい事など...   |                |               |             | 6          | 10          |
| 8                                | 祖母の「家族」について討議した。(話題にあがった。)例:家族の意向、家族の方針、家族の葛藤、介護負担など... |                |               |             | 6          | 10          |
| 9                                | 祖母の「住環境」について討議した。(話題にあがった。)例:段差、改築、手すり、簡易トイレなど...       |                | 5             | 3           | 6          | 2           |
| 10                               | 地域の「介護・施設」について討議した。(話題にあがった。)例:介護サービス、施設、介護認定、行政制度など... |                | 2             | 2           | 8          | 4           |
| 11                               | その他の討議内容(自由記載)例:○○○について...                              |                |               |             |            |             |
| <b>C. 問題解決のための提案について(最終的な提案)</b> |   |                |               |             |            |             |
| 12                               | 祖母の「病気」に関連する問題解決のプランを提案した。                              | 3              | 6             | 3           | 4          |             |
| 13                               | 祖母や家族の「思いや気持ち」に関連する問題解決のプランを提案した。                       |                | 1             | 2           | 9          | 4           |
| 14                               | 祖母の「家族」に関連する問題解決のプランを提案した。                              |                | 2             | 2           | 8          | 4           |
| 15                               | 祖母の「住環境」に関連する問題解決のプランを提案した。                             | 1              | 5             | 6           | 4          |             |
| 16                               | 地域の「介護・施設」に関連する問題解決のプランを提案した。                           | 1              | 3             | 5           | 4          | 3           |
| 17                               | 問題解決の提案はできなかった。   | 2              | 8             | 3           | 3          |             |
| 18                               | その他の提案(自由記載)例:○○○について...                                |                |               |             |            |             |

### 11に対するコメント

○自分や家族にできることとは何か。

### Dに対するコメント

○祖母と家族への感情移入することが出来ました。

A 映像教材の内容についてへの回答は1回目の結果とほぼ同様だった。B 討議内容についての祖母の「病気」について討議への回答は、討議不十分と考える者が出てきた。また、祖母の「住環境」について討議への回答は、息子宅への移住が改装後という前提もあり議論が不十分と考える者が出た。C 問題解決のための提案についてへの回答は、祖母の「住環境」・「介護・施設」に関連する問題解決のプランを提案した、の項目で不十分だったと回答する者が増えた。ただ、問題解決の提案はできなかった、という項目への回答は建設的意見が増えた。

② ビデオ教材及び事例検討の有用性に関するアンケート（4回目講義時）の集計結果を



表3に示す.

表3. ビデオ教材及び事例検討の有用性に関するアンケート(4回目講義時)の集計結果

|   |                                    |    |
|---|------------------------------------|----|
| ① | ビデオを視聴してその内容について理解できましたか           |    |
|   | 1. 充分理解できた                         | 8  |
|   | 2. まあ理解できた                         | 9  |
|   | 3. あまり理解できなかった                     | 1  |
|   | 4. 全く理解できなかった                      |    |
| ② | ビデオを見た時間について                       |    |
|   | 1. 非常に短い                           |    |
|   | 2. 短い                              | 4  |
|   | 3. 適切                              | 14 |
|   | 4. 非常に適切                           |    |
| ③ | ビデオを視聴した後にSGDを行いました, 対応ができましたか     |    |
|   | 1. 充分対応できた                         | 5  |
|   | 2. まあ対応できた                         | 13 |
|   | 3. あまり対応できなかった                     |    |
|   | 4. 全く対応できなかった                      |    |
| ④ | 映像を用いた問題提起の仕方について, 前提としての知識はありましたか |    |
|   | 1. 充分あった                           | 2  |
|   | 2. まああった                           | 14 |
|   | 3. あまりなかった                         | 2  |
|   | 4. 全くなかった                          |    |
| ⑤ | 今回のビデオ学習は, 講義のいつの段階で行ったら良いでしょうか    |    |
|   | 1. 講義前                             | 3  |
|   | 2. 講義中                             | 12 |
|   | 3. 講義後                             | 3  |
|   | 4. 翌週                              |    |
| ⑥ | 今回のビデオ学習において, 設定条件を把握できましたか        |    |
|   | 1. 充分把握できた                         | 5  |
|   | 2. まあ把握できた                         | 13 |
|   | 3. あまり把握できなかった                     |    |
|   | 4. 全く把握できなかった                      |    |
| ⑦ | 今回のビデオ学習は有用と考えられますか                |    |
|   | 1. 充分有用である                         | 7  |
|   | 2. まあ有用である                         | 11 |
|   | 3. あまり有用でない                        |    |
|   | 4. 全く有用でない                         |    |
| ⑧ | 今回のビデオ学習は, 文章による条件設定で代用できると思いますか   |    |
|   | 1. 充分代用できる                         | 3  |
|   | 2. まあ代用できる                         | 6  |
|   | 3. あまり代用できない                       | 9  |
|   | 4. 全く代用できない                        |    |

#### ビデオ学習後に関するフリーコメント

- イメージしやすいのでとてもいい教材だと思う.
- 時間の関係上, 話し合いの時間が十分ではなかった. もう少しゆとりがあると深いところまで話せたと思う.

○方言がきつすぎるので、その部分をもう少し判り易くすべき。どうしても方言が使いたいなら、字幕などで意味が判るようにすべきだと思う。

ビデオに関する内容、時間、SGD での対応、前提としての知識の有無、ビデオ内容の設定の可否、などについては、積極的な評価が多かった。それを踏まえて、今回のビデオ学習の有用性については全員が有用性を認めていた。さらに、講義においてビデオ学習を常に利用できるわけではないので、条件設定を文章で代用できるか、という設問を追加した。これに対し、代用できる、あまり代用できない、とそれぞれ半数ずつで、意見が分かれた。

③ 認知症患者に対するコミュニケーションのあり方に関するレポート

4 回目の講義終了時に、上記のテーマでレポート提出の課題を与えた。提出されたレポートのテキストマイニングソフトによる共起ネットワーク分析を行った結果を図3に示す。ネットワークは6つのグループからなり、最も大きいネットワークは「認知」であった。「認知」には「患者」「人」「家族」等がネットワークを結んでいたが、「患者」と「自分」の直接のネットワークはなく、また「本人」のネットワークにも「自分」とのネットワークはなかった。

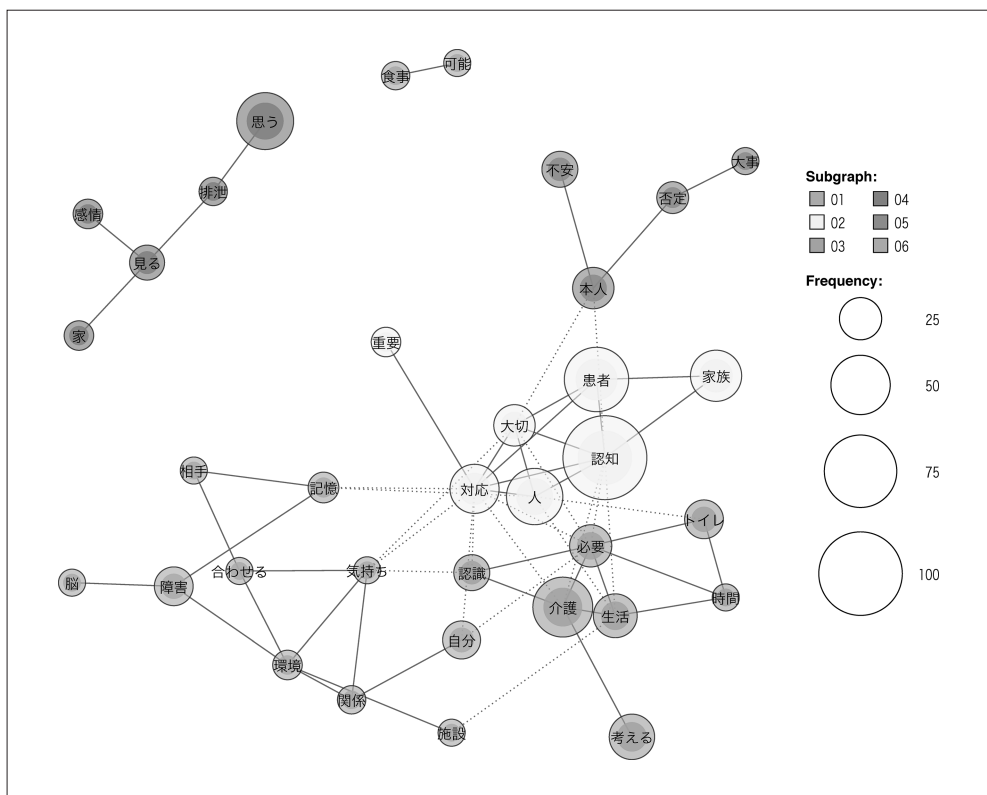


図3. レポート「認知症患者さんへの対応の仕方について」についての共起ネットワーク図

## 5. 考察

今回の動画は、介護保険を具体的に理解するためのツールとして作成されたものである。同時期に開講されている薬事関係法規の講義においてほぼ同時期に保険制度の講義がなされている時期である。介護保険法<sup>4)</sup>については（以下、条文のまま）、

（目的）

第一条 この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

（介護保険）

第二条 介護保険は、被保険者の要介護状態又は要支援状態（以下「要介護状態等」という。）に関し、必要な保険給付を行うものとする。

2 前項の保険給付は、要介護状態等の軽減又は悪化の防止に資するよう行われるとともに、医療との連携に十分配慮して行われなければならない。

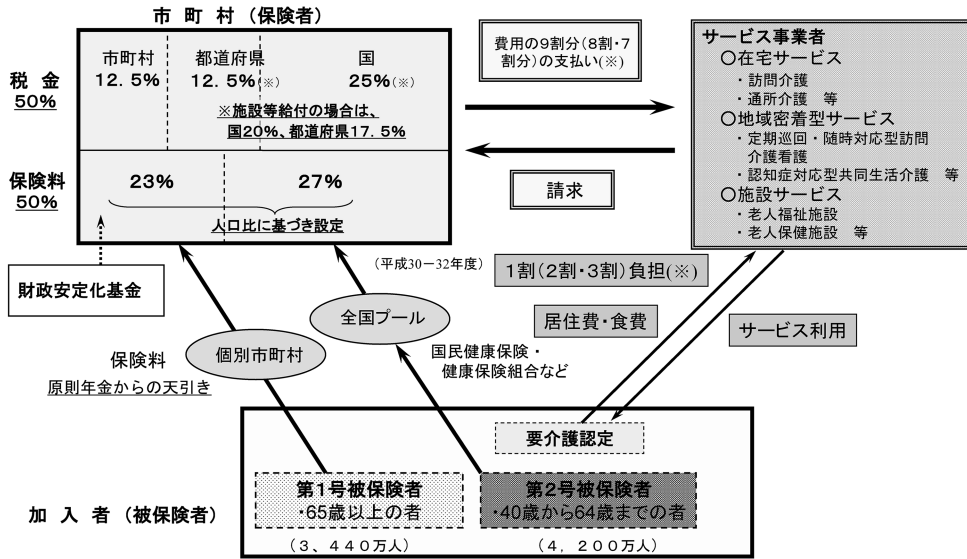
3 第一項の保険給付は、被保険者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、被保険者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者又は施設から、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して行われなければならない。

4 第一項の保険給付の内容及び水準は、被保険者が要介護状態となった場合においても、可能な限り、その居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮されなければならない。

第一条、第二条において、その目的と内容が以上のように記載されている。

「これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、」に示されるように、要支援から要介護まで能力の保持と回復を目的としている。そのような目的でどのようなサービスが展開されているかを把握しなければならない。制度自体の仕組みは図4に示す。また、介護サービスの利用の手続きを図5、介護保険サービスの体系を図6に示す。サービスは、要支援者・要介護者が受けるものという意味だけではなく、サービスを利用することにより介護を担当する家族達が休むことができるものでもある<sup>5)</sup>。

## 介護保険制度の仕組み



(注) 第1号被保険者の数は、「平成28年度介護保険事業状況報告年報」によるものであり、平成28年度末現在の数である。  
 第2号被保険者の数は、社会保険診療報酬支払基金が介護給付費納付金額を確定するための医療保険者からの報告によるものであり、平成28年度内の月平均値である。

(※) 一定以上所得者については、費用の2割負担(平成27年8月施行)又は3割負担(平成30年8月施行)。

図4. 介護保険制度の仕組み

## 介護サービスの利用の手続き

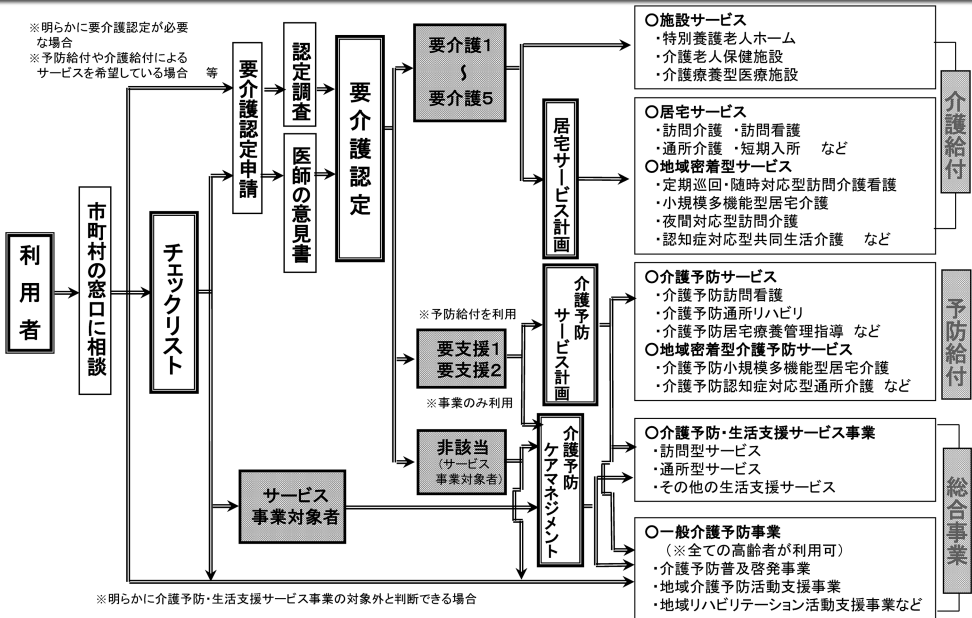


図5. 介護サービスの利用の手続き

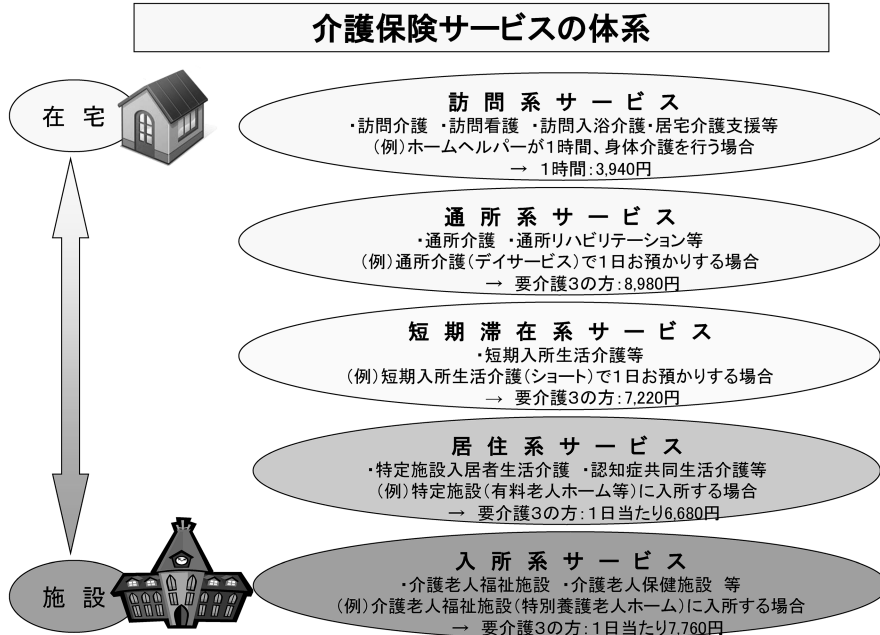


図6. 介護保険サービスの体系



図7. 地域包括ケアシステムの姿

今回は、以上の内容を受講生たちが具体的に理解することを目的としているビデオ教材である。さらに、図7に示す地域包括ケアシステムの中で、介護保険制度がどのように利用されるかを理解しなければならない。そして、かかりつけ薬局が果たす業務についても理解が必要である<sup>6)</sup>。また、住宅改修についても想起させる場面がある。介護支援専門員(ケアマネジャー)の関与の在り方が指摘され、改修が適切か否かの問題が指摘されている<sup>7)</sup>。

認知症患者に対してのコミュニケーションの取り方については、容易ではないものの、1年次に体験した老人ホームへのボランティアの経験が活かしているかもしれない。認知症患者の症状として、注意の障害、見当識障害、記憶障害、判断・思考の障害、失語症、構音障害

など挙げられる。これらを意識しながら、患者の人格否定をせずに一つ、一つ、言葉をつなげていく必要がある。原因によっても特徴的な症状があるので対応も異なってくるかもしれない。アルツハイマー型認知症では喚語困難（呼称障害）、理解の障害、超皮質性感覚失語と経過していく。レビー小体型認知症では症状の時刻変動、人物誤認が特徴である。前頭側頭葉変性症では侵される領域に対応して出現する臨床症状に基づき、行動障害が目立つ前頭側頭型認知症、失語と行動障害が前景に立つ意味性認知症、失語が前景に立つ進行性非流暢性失語の3型に分類される。意味性認知症と進行性非流暢性失語の失語が問題となる<sup>8)</sup>。本学では1年次に早期臨床体験と老人施設でのボランティア活動がある。早期臨床体験の意義については自己の将来設計をある程度行った時期に実施する就業体験はそれ以前のものより勉学の動機付けに有用であり、また今後の学習に対するモチベーションを高める観点からも、薬学部入学後の臨地体験実習は有意義である<sup>9)、10)</sup>。

今回のビデオ学習とは異なるが、典型的モデル症例と実症例でのPBLを実施した報告では、表4に示すように、それぞれのメリット、デメリットが存在することが示されている<sup>11)</sup>。今回のビデオ学習では、知識の獲得と理解としては有用であったと考えられる。しかし、テキストマイニングで示されたように、受講生は第3者的立場から離れることはなかった。この点が実症例と異なるのであろう。そして現場でこの態度が現れた場合には問題であろう。

表4. PBLにおける typical model patient と real patient の比較

|    | Typical model patient   | Real patient  |
|----|---|---|
| 長所 | <ul style="list-style-type: none"> <li>画一症例により全学生が共通の学習ができる</li> <li>必要と思われる学習事項を取り入れて、計画的な課題が提供できる</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>現実の症例を用いるので、症例を作成する必要がない</li> <li>実際に学生が体験した症例なので、興味あることが抽出しやすく、モチベーションの向上につながる</li> </ul> |
| 短所 | <ul style="list-style-type: none"> <li>症例の確実性による単純化や課題に対するパターン化した取り組み</li> <li>症例を作成する必要がある(良い症例を作成するのに労力を要する)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>実症例が複雑で学生が検討するのに負担が大きい場合がある</li> <li>必要と思われる学習内容がすべての症例の問題点の中に含まれているとは限らない</li> </ul>      |

認知症老人に対する施策として認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（平成27年10月23日 厚生労働省）が発表されており、①認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進と②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供が2本柱となっている。現実的には、痴呆性老人の因子として記憶障害、見当識障害、興奮・妄想的行動、異食が指摘されているが、これらの認知障害の有無により介護負担感が影響されていることが示されている<sup>12)</sup> ため、家族だけでの介護を難しくしている。さらに、施設での介護時のトラブル事例として、転倒、ずり落ち、転落、原因不明の負傷が頻度多く発生しているようである<sup>13)</sup>。人員・設備的に劣るであろう家庭内では、これらのトラブルは発生した場合、大きな問題であろう。

今回のアンケート内容が示すように、ビデオ学習の有用性に関してはビデオ学習の意義を

否定するものでなく有用であることが示された。ただ、印刷物の事例紹介などによる問題点提起に対しても、否定的な意見は認められず、ビデオ学習の代替となる可能性も示唆された。

## 利益相反

開示すべき利益相反はない。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、ビデオ教材をご提供いただきました昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 亀井大輔先生並びに昭和大学在宅チーム医療教育推進プロジェクトに深謝申し上げます。

## 6. 参考文献

- 1) 亀井大輔:S8-3 医療人養成のための Narrative-Based Medicine (NBM) 及び医療コミュニケーション教育の実践—昭和大学在宅チーム医療教育推進プロジェクト—, 第3回日本薬学教育学会大会 講演要旨集 p100, 2018
- 2) 樋口耕一: テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—, 理論と方法 19巻 p101-115, 2004
- 3) KH Coder, <http://kxcoder.net/dl3.html>, チュートリアルも含む (2019年10月18日アクセス)
- 4) 介護保険法 (平成30年4月1日改正) [https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws\\_search/lsg0500/detail?lawId=409AC0000000123](https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=409AC0000000123) (2019年10月18日アクセス)
- 5) 厚生労働省老健局: 公的介護保険制度の現状と今後の役割 平成30年度
- 6) 厚生労働省: 患者のため薬局ビジョン〜「門前」から「かかりつけ」,そして「地域」へ, 平成27年10月23日, [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/iyakuhin/yakkyoku\\_yakuzai/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/yakkyoku_yakuzai/index.html) (2019年10月18日アクセス)
- 7) 合同臨地訓練報告 第4チーム: 介護保険制度における住宅改修の現状と課題—中野区の住宅改修の実態とケアマネージャーの関わり—, J. Natl. Inst. Public Health 50 p49-52, 2001
- 8) 池田学: 認知症者のコミュニケーション, 高次脳機能研究 35巻 p292-296, 2015
- 9) 鶴田聡, 石黒貴子, 森内宏志: 小児福祉施設や老人介護施設を利用した早期体験学習が薬学生に及ぼす影響, Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 35巻 p377-386, 2009
- 10) 島田憲一, 谷口律子, 小野浩重他: 就実大学薬学部における早期体験学習の実施と評価—事前事後のアンケート調査から—, 就実論叢 34巻 p209-219, 2012
- 11) 定本清美, 内山利満: 在宅医療実習における PBL 体験例を生かした学習の意義, 医学教育 34巻 p29-33, 2003

- 12) 杉浦圭子, 伊藤美樹子, 三上洋: 家族介護者における在宅認知症高齢者の問題行動由来の介護負担の特性, 日本老年医学会雑誌 44巻 p.717-725, 2007
- 13) 三田寺裕治, 赤澤宏平: 介護保険施設における介護事故の発生状況に関する分析, 社会医学研究 第30巻 p123-130, 2013



